

*ここは 地域みんなの学校

地域の中に学校がある、学校の中に地域がある

やまびこだより No.134 (2014年度)より



ホタルの幼虫を放流



音楽の授業



中沢地区の全戸に配布した「応援隊員募集」のチラシ



放課後学習

駄菓子屋さん

中沢小学校コミュニティスクール構想

- 中沢を知り中沢を愛する子を育てます。
- 中沢を元気にする活動を率先して行います。
- 中沢小学校に地域の世代間交流の拠点としての役割を持たせます。
- 「学校・家庭・地域の子どもたちを軸とした支え合いの循環」を構築します。

駒ヶ根市立中沢小学校は、明治42年(1909年)に地域の人の寄付によって建てられた学校です。1960年代には900名の児童が在籍したことがありましたが、今では地域に若い人も減り、児童数は108名となりました。

地域の皆さんによって建てられた中沢小学校は、創立以来地域にとって大切な場所でした。そうは言っても、やはり学校は、児童の保護者でもない、ちょっと行きにくい場所でした。

地域の人々が気軽に訪れる学校

ところが、今の中沢小学校には、そんな学校の数居の高さは感じられません。「リンゴが採れたから食べて」「マツタケが出てたから持ってきたわ」…職員室には、地域の人々がひっきりなしに訪れます。授業をのぞくと、先生の他に地域の方がいて、定規の構え方を教えていたり、音読を聞いていたり、一緒に歌を歌ったりしています。

2012年度から、ボランティアの「中沢小学校応援隊」が活動しています。環境美化や、放課後の宿題の指導を手伝ったり、炭焼き、田んぼ作り、ホタルの飼育、書道や墨絵の指導など、子どもたちに教えた得意技を持つ人たちが集まっています。

さらに今年度からは、4名の学校支援コーディネーターが地域とのパイプ役として日替わりで勤務しています。保護者を中心とした「チョコっと部隊」も発足。「ちょっとだけ助けてください!」というメールが、学校から保護者に届きます。メールを見たお母さんたちがやってきては、子どもたちと先生を助けてくれます。保護者のお友達、近所の人…学校に出入りする地域の人々の輪は、どんどん広がっていきました。「チョコっと部隊」で授業のお手伝いに来たお母さんたちが、思いがけず新しいことを学んだりする場面も見られます。

こうして集まった地域の人々が、また新しい提案をしてくれます。「中沢も昔

は賑やかだったけれど、すっかりさみしくなったなあ」と、子どもたちが集まって遊べる「駄菓子屋さん」を、月に1度開いてくれました。「ポン菓子」の実演や紙芝居など、楽しいものをみんなが持ち寄って大賑わい。駄菓子屋さんには、小学校に上がっていない小さな子ども、大人たちもやってきました。小さな後輩も、お父さん、お母さんたちも、おじいちゃん、おばあちゃんも、中沢のみんなが集まる学校。多世代交流と呼ぶにはあまりに自然な、地域そのものが、中沢小学校の中にあるのです。

学校から中沢を元気に

子どもたちに中沢の良いものを伝えたい地域の人々と、猫の手も借りたいほど忙しい先生方。学校から中沢を元気にしたい、中沢を知り、中沢を愛する子どもを育てたい、という思いを共有しています。様々な世代の人が集い、学び合う。中沢小学校は、「子どもと共に地域も育つ」場となっています。



つながりマップ

学校から中沢を元気にしよう!

中沢が好き!



コミュニティスクール 取り組みのポイント

1. 学校の現状を共有する

先生方がどれだけの業務量を抱えているか、学校がどんな課題を抱えているか、どんな子どもたちが学んでいるか、いわゆる「学校の憂鬱」を地域の人々は知りません。学校はそれだけ、地域の人には数居が高いのも事実です。学校の現状を共有し、地域の人は何ができるのかを、一緒に考えることが必要です。

2. 保護者も地域の住民

ゲスト講師を招いて昔の遊びを教わったり、畑や田んぼを作ったり。学校に関わるボランティアは、比較的高齢の方が多く傾向があります。しかし、もっと学校にとって身近な地域住民は、保護者です。保護者の持つ力やネットワークを活かすことで、活動者の幅が広がります。また、学校の中に三世代のつながり、学び合いが生まれてきます。

3. 学校を地域に開き、助けられ上手に

子どもたちと関わりたい、学校を助けられるという人は地域にたくさんいます。そんな人々と連携をしていくためにはまず自らを開くことが大切です。「助けて」と言えば、助けてくれる人がいます。「助けられ上手」が地域をつないでいきます。中沢小学校では、メール配信や学校ブログでこまめに「助けて」と言い続けています。

4. 地域の夢を共有する

地域で育つ子どもがどんな子どもになってほしいか。学校がある地域はどんな地域であってほしいのか。その「夢」を共有することで、地域と学校は仲間になります。「地域の教育力を活かす」というのは、地域の力を借りて子どもたちを育てていくことであると同時に、地域にとっては地域の担い手である子どもたちを育てていく目的も持っています。学校は、地域づくりの拠点でもあるのです。

「ふるさとサクラといえば…」

地域を足場にした体験学習

福祉教育実践ガイド 2012年度版より



「私にとってのふるさとサクラを見つけよう!!」
3 学年 総合的な学習の実践から

知ろう、見つけよう、 私たちの地域を!

長野市立櫻ヶ岡中学校では、総合的な学習の時間で「地域を足場にした学習」を行ってきました。校舎の改築のために切られてしまう桜の木を地域の人たちにも覚えていてほしい、と最後の花を押し花にして葉を作り販売する「さくらプロジェクト」に取り組んだほか、地域の方々に協力していただき「働くて何?」ということを考える職場体験学習なども行ってきました。

「さくらプロジェクト」に取り組んだ2年生が3年生になる時、先生方は気づきました。地域の皆さんに学んできたけれど、生徒たちは、地域にそれほど愛着を持っていないのではないかと。中学校を卒業すると、ますます地域との関係が薄くなってしまふ。ここはかけがえのない「ふるさと」だということを意識し、自ら「地域を知りたい、地域のために何かしたい」と思っています。

そんな先生方の願いから、3年生の総合学習では、「知ろう 私たちの住む

地域 見つけよう 私たちのふるさと」というテーマで活動をしていくことになりました。

まちに出て、いろいろな人に 会うことで見えてきたもの

「ふるさとサクラといえば、何?」……みんなで出し合ったものをもとにテーマ別のグループを作りました。こうして「創ろう・造ろう 私にとってのふるさとサクラ～地域に発信! サクラ○○プロジェクト」(○○には、p.28-29で紹介する6つのテーマが入ります)がスタートしました。

具体的にどんな活動をしたらいいかを話し合い、工夫して進めていきました。普段なかなか会えない人、行けない場所へも、勇気を出してアタックします。最初は誰に話を聞けばいいのかさえ分からないグループもありました。しかし、まちに出ていろいろなものを見て、人に会ううちに、課題や宝物、次の活動の糸口が見えてきました。中学生だからこそできる関わり方もあれば、大人の社会の現実に触れることもありました。



「ふるさとづくり」の授業で、おずおずと地域に踏み出した中学生。顔をあげたら、そこには助けてくれる人がたくさんいました。地域の人々の力を借りて、活動はどんどん広がっていきました。

小さな子どもたちからお年寄りまで、いろいろな人に会い、たくさんのことを教えてもらったり、挨拶をしてもらえるようになったりしました。人と話すときに、勇気を出して声をかけること、どうしたら伝わるのか工夫することも学びました。

この学習は、3年生の総合的な学習の時間の半分以上にあたる約40時間をかけて行う、大プロジェクトとなりました。

地域の結びつきを感じて

「私たちのふるさとサクラ」。そう意識して、地域に視線を向けると、たくさんの方が応え、助けてくれました。「それまでは、地域は自分に関係ないと思っていたけれど、この活動を通して地域との結びつきを強く感じた。これからは積極的に関わっていききたい」。一人の男子生徒が、卒業前にたくさんの大人たちの前でそう発表しました。活動を通して、大きく成長したのです。

「ふるさとサクラといえば…」 地域を足場にした総合学習

※2013年2月2日「福祉教育のつどい」事例発表より

総合的な学習の時間◎テーマ

地域を足場に自立していく生徒を育む総合的な学習

「地域を足場に」とは・・・

- ①地域に学習素材を見つけ、地域とのかかわりの中で学習を深めていく。
- ②地域から見いだした課題をもとに、視野を社会全体や世界に広げていく。
- ③社会にある問題等から課題を見だし、地域に戻って学習を深めていく。

地域を足場にすることで、より体験的であり、実感を伴った学習が展開できる。

→福祉教育とのつながりが生まれた

●櫻ヶ岡中学校 小松保裕先生より

活動を通して、地域の方の温かさ、支えを感じることができました。生徒たちが何かしようとする、それに応えてくださる方が地域にはありました。何でもやってみよう、やってみれば何とかなる、という経験をして、大きな自信になったと思います。ある生徒が言いました。「私が地域のことを気にするようになったら、地域の方が私に寄ってきてくれるようになった」。顔を上げれば相手と目が合う。目が合えば挨拶をして関係が始まる。私もそのことを、生徒たちから教わりました。

生徒たちもたくさんの人たちと出会ったし、地域の人たちを生徒たちがつなぐ場面もたくさんありました。私自身も、生徒たちのおかげでいろいろな人とのつながることができました。地域に出会う、つながる、そして笑顔が生まれる、そういう福祉教育だったと感じています。



2学年前期

「働くてどういうこと?」

～ふるさとサクラに働く人々の生き方に学ぼう～

大まかな学習の流れ

*「働くうえで大切なこと」検討会

ビデオを見たり、自分で予想したりして意見を出し合う

*「ふるさとサクラに働く方のお話を聞こう」

まちの人たちから働くことや商店会などについて、話していただく

*ふるさとサクラ探検隊

学年で分担し、グループごとに職場訪問しインタビュー

*職場体験学習

(職場決定・事前打ち合わせ・当日・お礼状書き等)

個人テーマを決定し、テーマに沿って体験・インタビュー

*「働くてどういうこと?」私の結論!!

振り返りマップをかき、学年討論会で互いの意見を交換

2学年 後期

「知ろう 私たちの住む地域 見つけよう 私たちのふるさと」

大まかな学習の流れ

*「ふるさとサクラといえば○○」

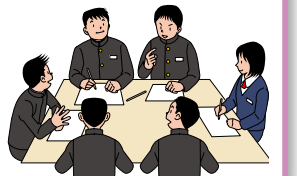
○○に入るものを考え、学年集会で紹介しあう。知っていること、もっと知りたいことを付箋に書き、ボードに貼る。

*「ふるさとサクラ調べ隊」

自分が調べたいことを決め、グループで検討しながら実際に地域に出て調べる。討論会で調べたことを紹介する。

*ふるさとサクラ調べ隊で学んだこと

調べる中で知ったことや生まれた思いをもとに、これから自分ができそうなことやしたいことを考え、紹介し合う。



3学年

「創ろう・造ろう私にとってのふるさとサクラ ～地域に発信!! サクラ○○プロジェクト～」

これまで(2学年)の実践を踏まえ……

生徒のふるさとサクラに対する思いの高まりを大切にしつつ、地域に対して自分ができることを探り、実行することで、地域への所属意識を高め、自立できる生徒になってほしい。

生徒が
「わたしにとってのふるさととはここにある」
という思いをもって中学校での学習を終えられるように願って。



大まかな学習の流れ



「創ろう・造ろう 私にとってのふるさと桜」 ～地域に発信！桜○○プロジェクト～」

1.七瀬通り商店街

商店街を活性化させ、元気なまちに！

- 夏祭りの参加、手伝い
- 企画会議へ参加 ● 商店街の人と交流
- スタンブラリーの企画実行
- 七瀬通り商店街のPR

昔ながらの
商店街です。

いただき
まあす★

まちのプロモーションビデオも
作っちゃった！

スタンプを集めたら
お土産があるよ！

淋しくなってきた商店街を
盛り上げたい！楽しい企画を
たくさん考えました。

信大生とコラボ！

夏祭りには
金魚すくいだよね！

謎の多い
古墳です。

南向塚古墳のお掃除…
地元の住民自治協議会の
ホームページでも紹介しました。

○○には
こんなテーマが
入ります

2.東口開発*

長野駅の東口開発を知り、
より良い まちづくりを！

- 今後の開発について ● 区画整理、住民意識
- 開発前と開発後の変化 ● 東口の公園開発
- 開発の内容を知ってもらう

* 1993年度から続く長野駅周辺の土地区画整理事業

開発？ それとも
区画整理？

立場が違くと、
このまちの見え方も
違うんだね。

私達のふるさと桜には
こんなにた
くさんの
人・もの・場所が
ありました。

いろんな意見があるんだなあ。
まちづくりも難しいんだ。

地元の皆さんの
思いを、発表！

地域環境チームのみんな～！
花壇作りの手伝って！！

高齢者の方にいろい
ろなことを教えてもらい
ました。

お年寄り・子ども＝福祉
⇒ボランティアセンター！
…と思ったら

よし、一緒にやろう！
立派な花壇にするぞー。

3.お年寄り、子ども

お年寄り・子どもを含め、
みんなが住みやすいまちに！

- 高齢者施設の訪問 歌、話、手伝い、など
- お年寄りに昔の遊びや料理を教えてもらう
- 三世代交流

ボランティア「される」だけじゃないんですよ！
ここには元気なお年寄りがいっぱい来てます！

手をつないで
一緒に遊ぼう！

歓迎してくれた！
うれしいなー！

6.特産品

地域の特産品をPR！

- 七味を使った料理
- 七味缶のイラスト
- イメージキャラクター作成
- おやきの調理、開発、PR
- りんごを使った料理、開発、PR

会社のしくみや商品づくりの
コストのことなど初めて知った！

オリジナルキャラクター
「唐辛七味の助」。缶の
パッケージデザインに提
案させていただきました。

いろんな事情で製品化
できなかったけど…

5.地域環境

みんなが住みやすい地域に！

- 地域ごみ拾い、ごみ調査
- 地域を花でいっぱい
- 桜の押し花作成
- 桜の木を使って記念品の制作
- 地域のバリアフリー調査

おうちゅう
櫻中のシンボルでもある桜で
押し花の葉を作りました。

この桜の木も今はありません。

★ 町道の「桜トンネル」を守ろう！

50年続く自慢の伝統活動

やまびこだより No.13 ■ (2014年度)より



ホタルの里として知られる上伊那郡辰野町。まちなかにある城前橋から JR 飯田線宮木駅までの町道は美しい桜並木の一本道です。辰野中学校では、50 年間にわたって、この桜の美化活動に取り組んできました。桜並木の周りには、地域の人々のいろいろな思いがあります。みんなの思いが引き継がれ、つながりながら、まちは育っていきます。

辰野中学校と「城前の桜」

辰野町立辰野中学校に近い辰野町城前橋から、最寄りの JR 飯田線宮木駅までの一本道「辰野町道1号線(通称:城前線)」は、美しい桜のトンネルです。

この並木道の桜は、1960年に母国に帰国した北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)の方々が、辰野町に暮らした思い出に、と植樹していったといういわれのあるものです。

この沿線の清掃と緑化活動には、早くから辰野中学校の生徒たちが関わっていました。苗木を買って植樹し、草取りをし、季節になると花びらや落ち葉の掃除をしてきました。50年も続く、辰野中学校自慢の地域活動です。

一人の女子生徒の思いから

この活動が始められ、そして続けてきた背景には、この特別な桜に対する思いがありました。

活動を始めたのは昭和37年(1962年)、当時の辰野中学校3年生の女子生徒。生徒会活動の帰りに、偶然この桜のいわれを知りました。当時の桜は瀕死の状態。そこで、彼女は「自分にできることをしよう」と、友人と草取りを始めます。彼女の思いと行動は後輩たちに引き継がれ、緑化委員会、そして生徒会の活動へと広がって行きました。

今では老木になり、元気がなくなってきた、並木道の桜。沿線の住民の方からは「確かに花はきれいだけど、いい時ばかりではない。最近は大きな枝が落ちて危険。そろそろ伐採してはどうだ」という声も挙がってきました。

2010年に、沿線にある辰野町ボランティアセンターを中心に、桜の手入れを地域の人々で考える「城前のサクラ長寿化プロジェクト」が始まりました。



城前のサクラ長寿化プロジェクト

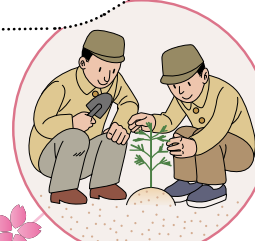
プロジェクトでは、桜についての勉強会、苔落としなどの作業をしています。また、2012年1月に開催された「協働のまちづくりを進めるボランティア懇談会」(辰野町ボランティアセンター主催)では、地域の人々が桜について話し合いました。辰野中学校もこのプロジェクトや会議に参加し、地域の方々と出会い、話し合う機会を持ちました。

中学生が育ててきた並木道は、今ではまちのシンボルとして人々に愛され、また、いろいろな思いの出会い場になりました。桜を通して、沿線の空き家の増加や高齢化の現実など、地域の抱える課題にも気づかれます。

活動を継続し、また地域に広げていくためにどうしたらいいか、辰野中学校の皆さんは今も考え続けています。

辰野町「城前線」桜並木の物語

このまちを思う北朝鮮の方の気持ちがこもった大切な桜だったんです。



1960年 朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の人たちが母国に帰国の際、記念として城前線に桜の木を植える。



1962 辰野中学校3年生の女子生徒が、友達と2人で桜の草取りを始める

1963 辰中生みんなて桜を育てようと呼びかけ

1964 辰中生徒会に緑化委員会が発足

1965 桜並木の掃除は辰中の伝統的活動に！

その後...桜並木は大きく育って、見事な桜のトンネルになりました。

後輩にも桜並木のいわれを知ってもらい、これからまちの人たちと一緒に守り育てていきたいです。



辰野中学校生徒会役員 (2012年度)

1970 町の整備が行われ、桜並木は見慣れた風景となり、桜並木のいわれも次第に忘れられてしまいました。

やがて、桜並木も老木化が進み……

2010～ 「城前のサクラ 長寿化プロジェクト」始動

いろいろな立場の、いろいろな思いがある。だからみんなで、桜のことを話し合おう！

「協働のまちづくりをすすめるボランティア懇談会」開催

地域の人と一緒に取り組んでいます。



幹や枝の苔落とし

桜の木のカルテ作り



桜がもっと元気になるようにしたい。

桜並木はまちのみんなのもの みんなで協力したら みんなが喜ぶ、桜も喜ぶ！

●辰野中学校生徒会顧問 山本訓子先生より

「先輩から引き継いだ活動だから続けていく」というだけで取り組むのではなく、「なぜこの活動が大切なのか」ということを全校が理解した上で、新しいアイデアを加えながら生徒会として取り組んでいけるようなサポートが顧問としては大切だとあらためて感じました。

今年度、ボランティアセンターの方々に間にあっていただき、様々な活動を地域の方と一緒にさせていただいたことで、生徒達は地域の方々の願いや先輩方の願いを受け継ぎ、これまで以上に桜並木を大切にしていきたいという気持ちを強く持って積極的に活動に取り組んできました。生徒達には卒業後も気持ちを大切に持ち続けてほしいと思います。

今後も地域の方々と一緒になって大切な桜並木を育ててほしいと願っています。

植えた方の思いや育てたいと思ったはじめの思いも知って、つないで下さいね。

活動を始めた当時の女子生徒 野澤長子さん



★ 柳中セミナー

共生の街づくり NAGANO

福祉教育実践ガイド 2011年度版より



ボランティアセンターを訪問



環境のことを考えている人たちはみんな熱いなあ。私たちならこんなふうに考えるよ。

さて、では自分たちの住んでいる地域はどんなところなんだろう。

あれえ～？点字ブロックが壊れてるよ。これじゃ視覚障がいの人たちが困るよね！

初めてボランティアセンターを訪れました。「ボランティアってなんだろう？」から学習しました。

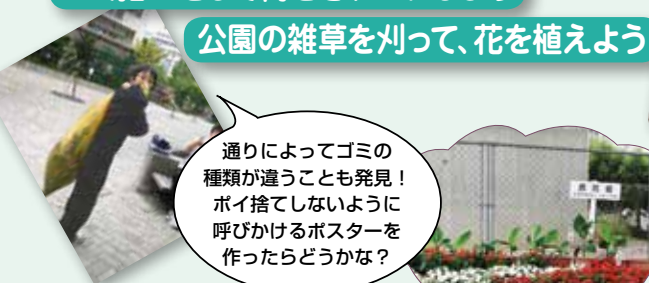
ボラセンでは、まずボランティアの語源「Volvo」の意味から教わりました。意外と知らないボランティアの本当の意味。もっと自由でいいのさあ。自分から動くってことかあ。発見がいっぱいありました。

ボランティアグループの皆さんは、わかりやすく丁寧に活動やその想いを話してくれました。

ちょっとした段差でも車いすはたいへんなんだ。力も要るね。

車いすで街にでてみよう

ゴミ拾いをして街をきれいにしよう



公園の雑草を刈って、花を植えよう

通りによってゴミの種類が違うことも発見！ポイ捨てしないように呼びかけるポスターを作ったらどうかな？

公園で出会った娘さんとお母さんから、いろんな話を聞きました。街に出るとそこで暮らす人たちと出会えます。あたりまえだけど、授業で行くことと違って見えるね。

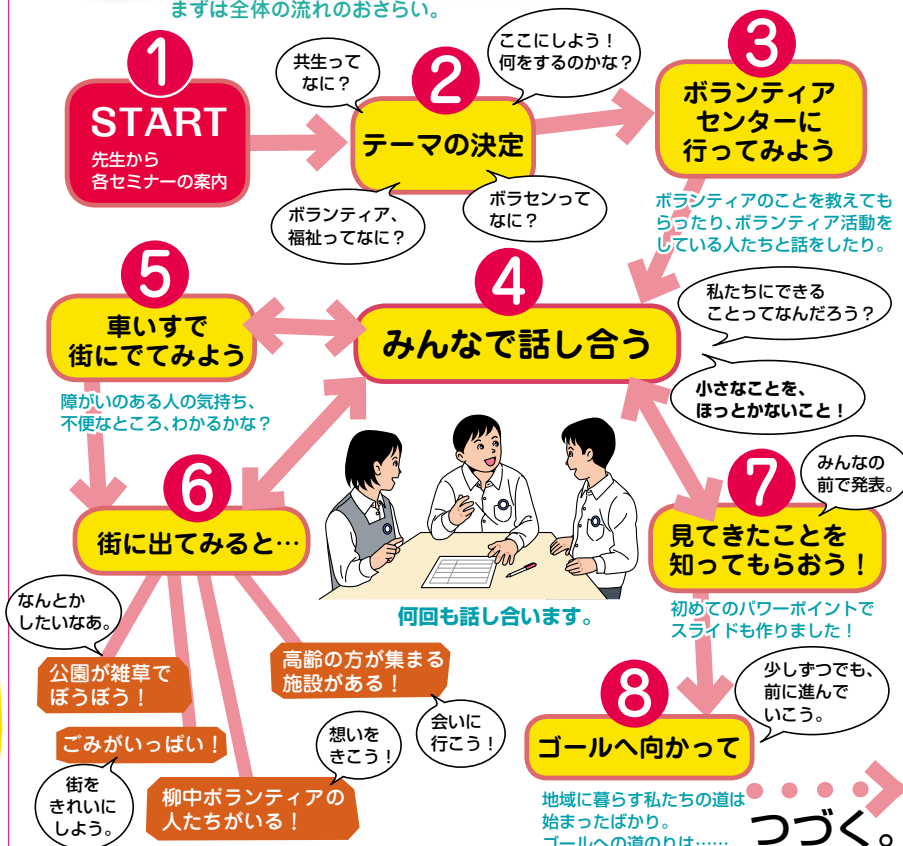
出会い、気づき、動き出す心

柳町中学校では、2年生全員が「柳町中セミナー」という教科・クラスを超えてまなぶ授業があります。テーマはいろいろ。「近未来予測セミナー」「写真で語る長野」「〇〇な体になりたい！」「釣り」「共生の街づくり NAGANO」…並んだテーマを見るだけで、いったい何が起ころのかワクワク。自分で興味のあるテーマを選んで、地域の人との交流の中からまなびます。テーマを見つけ、出会い、体験し、工夫し、話し合いながらまなんでいくこの「柳町中セミナー」は、実は様々な教科の学習もその中でできてしまうという、楽しい授業なのです。

●柳町中学校担当 油井桐子先生より
まず生徒たちには、「福祉＝自分の身近にあること」と気づいてもらい、体験を通して地域の課題に自ら気づき、自ら動ける人になってもらいたいと考えました。地域に出たことで、視野が広がり、発想を豊かにすることができました。

共生の街づくりNAGANO

まずは全体の流れのおさらい。



福祉・ボランティアがテーマの「共生の街づくりNAGANO」はこんなふうに行われました。

★ 地域とつながろう！

地域に暮らすさまざまな人とともに学ぶ

福祉教育実践ガイド 2011年度版より



あひるっこ(未就園児サークル)との交流



すぐに仲良くなれるよ。ほら、積み木だよ。

おにいちゃんの背中は楽しいなあ。

最初はドキドキ、でも小さい子はかわいいなあ。

うう……お、重い。

地域には小さい子もたくさん暮らしているよね。小さい子と一緒に遊んでいると優しい気持ちになるよ。お母さんたちも仲良しになるんだ。

結婚してロシアから長野に来たオレシャさんとの交流



オレシャさんようこそ！みんなで歓迎。

ロシアってどんな国？クイズやダンスをしたよ。その後もお母さんたちとオレシャさんはとても仲良しになって、何度も集まって楽しいことをしているよ。

ちょっとりんごがおいしいな。ロシアってどんな国なんだろう？



事前にクラスの子どもの家でお母さんたちもオレシャさんと交流しました。すっかり仲良しに！

地域のお宝探し



カメラを持って、まちの人にインタビューして、お宝を探そう！みんなの知らなかったことや、おもしろいところがいっぱい！地域の人はたくさんお話をしてくれました。

カメラで動画……緊張するうー。

●綿内小学校3年礼組担任 島田和政先生より

保護者・地域とともにまなぶ

綿内小学校に赴任したばかりの4月。ボランティア活動として、子どもたちと保護者と一緒に、地域の方々との交流をしたいと思います。ボランティアセンターの協力を得て、高齢者施設、子育てサークル、外国から長野に来られた方との交流、地域探検など、子どもたちは地域に飛び出していきました。

子どもたちには、大人が計り知れない力があり、ふだんは出会えない人たちとでもいつの間にか仲良くなっていきます。遊びや交流の中から、体全体、心全開で地域をまなんでいきます。

そんな様子を見てみると、子どもたちにとって地域に出て行くことは、学校の中や授業だけでは得られない大切なまなびになっていることを実感します。

また、保護者の力も大切なポイントです。保護者の力を借りることで、学習は深まり、広がります。保護者自身も子どもたちのまなびを間近で感じることができ、地域を知り、多くの方と出会うことができます。

●長野市ボランティアセンターより

地域の人々のまなびとして

島田先生は、前任校でも子どもたちと地域に出てさまざまな人と関わりながら、小さな子どもや高齢者との交流、地域の課題を発見するまち歩きなどをしていました。やりたいことを思いつくと、すぐにボランティアセンターに連絡があります。「こんな人はいませんか？」「こんなことをやりたいんだけど、どんな風にしようか？」など。ボランティアセンターでは、先生が子どもたちに何をまなんで欲しいかを聞きながら、一緒に考えます。

3年生は「綿内の時間（総合的な学習の時間）」で「自分たちの地域を探検」します。平成22年度は、ボランティアセンターで進めている住民ディレクターの取り組みをその時間に合わせて実施しました。

子どもたちは大人よりずっと好奇心があり、大人にはないような視点を持っています。また、取材を受ける大人も、子どもたちが地域のことを知りたいと思う気持ちを受け止めて、たくさん話をしてくれます。

後日、出来上がった映像を見る会を開き、ふだん何気なく目にしている地域にも、たくさんのお宝や人材があることを地域の方も子どもたちからまなぶことができたようです。

✳️ まちのお宝番組をつくろう！

子どもディレクターになって、番組をつくろう！



話を聞くのも真剣、カメラも真剣。



長野市映像祭に出品しました。たくさんの人にまちのいいところをアピールしました。



ビデオカメラを持って地域の人にインタビューして番組を作る「住民ディレクター」。前年は1つのクラスで取り組んだ子どもたちが、今年は学年全員で飛び出しました。カメラというツールを手に飛び出してみたら、たくさんの学びと出会いがありました。

●綿内小学校 4 年礼組担任 島田和政先生より

地域ではさまざまな人が暮らし、長い時間その暮らしを紡いでいます。そのことを知り、たくさんの人と出会うことで、子どもたちは教科の学習では学べない地域の姿を学ぶことになります。それを支える教師と保護者、そして地域のみなさん。出会い、顔を覚えて関係が作られていきます。映像という媒体を使い、子どもたちの目を通して地域を見ることで、大人も同じ時間を共有します。そこから、クラス替えしたあとも保護者同士や地域と子どもたちのかかわりが深まっていく可能性が見えました。

地域みなさん、大いに語る！

5年生にあがるときにクラス替えがあることを考えると、学年全部のお母さんたちが仲良くなってもらえたらいいなあ〜と考えた先生。そうだ！去年やった「住民ディレクター」(p.33)を学年でやろうと思い立ち、さっそく「今年もやりたい!ぜひ、学年で」と社協に相談。学年全員? と不安もあったが、先生の気持ちを聞き、コーディネーターも協力することに。

クラスを超えて班を作り、そこに保護者やボランティアが2〜3人ついて地域へ取材に出かけました。取材先は保護者から募集、リンゴやレンコンの農家、寺をはじめ、学校がある若穂地区の歴史や文化、暮らしを語ってくれる人を訪ねる10のコースとなりました。

授業は社会科学を中心に構成され、必ずしもボランティア・福祉学習の位置づけではありません。が、子どもたちが学んだことは、地域の「暮らし」「歴史」「文化」などさまざま。「暮らし」では廃線になる長野電鉄屋代線（平成24年3月31日廃線）の線路やりんご農家の苦勞、「歴史」では昔あった山火事や水害、地域に尽力した人の逸話など、「文化」では安来節や昔話の紙芝居。親や先生も知らなかったことを地域の人は教えてくれます。地域の人は、改めて子どもに語ることで自分や自分の地域を見つめなおします。

カメラのちから

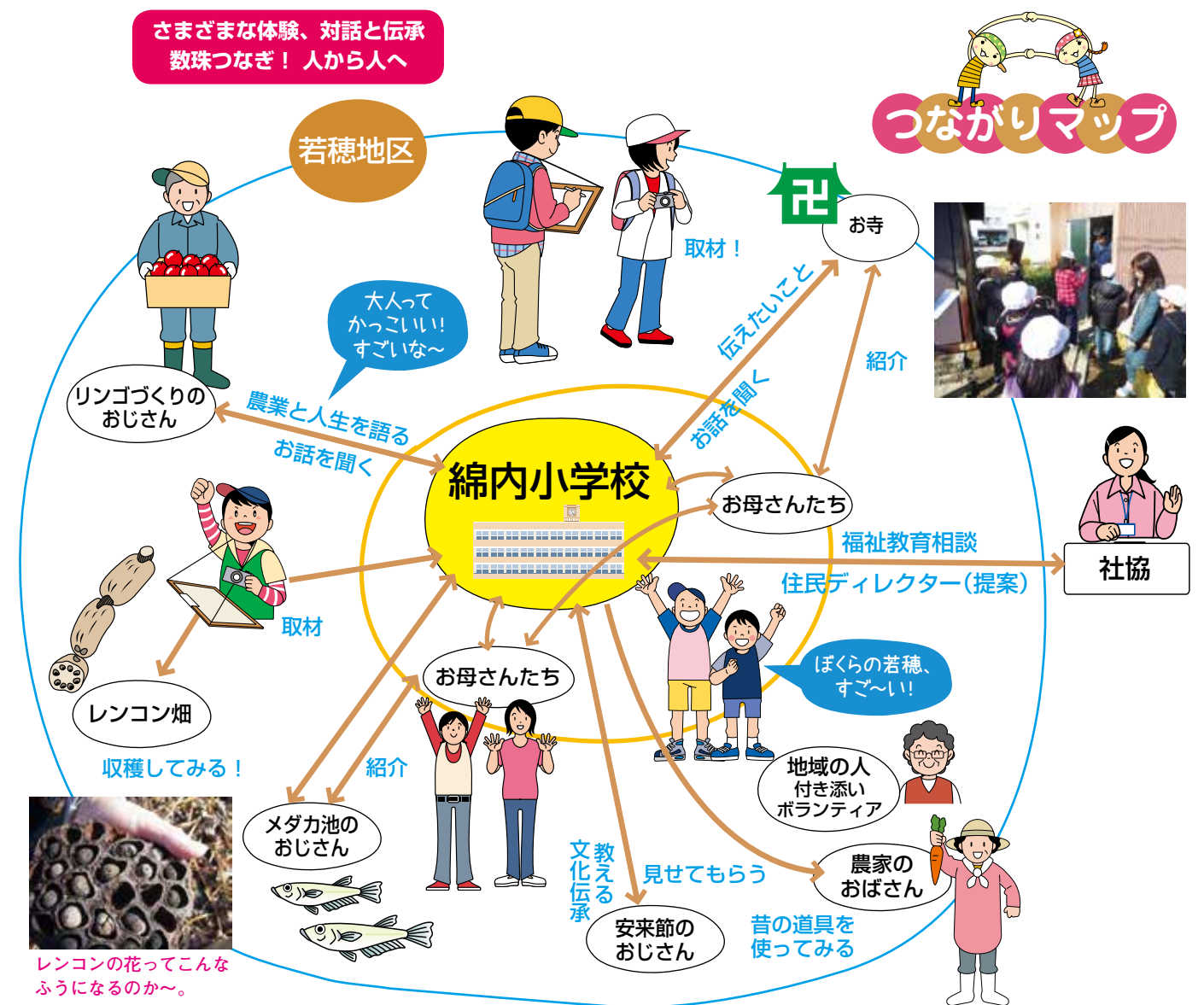
また、カメラを持って「取材」という行為を付加したことで、子どもたちはどう見せるのか、どう聞くのかなど考え、

話し合いながら、コミュニケーションを
とり、能動的な姿勢をみせてくれます。

出来上がった動画は、参観日などで保護者にもみてもらい、学校がどんなことを目指し、どんな授業をしているのかを伝えることもでき、親も地域を知ることができました。さらに、2月には、市内の住民ディレクターが一堂に会する映像祭にも出演。子どもたちと地域の人々の出会いはさらに多くの人に伝わっていきました。

●長野市ボランティアセンターより

① ういった授業の展開は学校や社協だけでできないところにポイントがあります。保護者・地域内外の協力者がかかわることで学校が開かれ、その結果子どもたちを見守る大人が増えていきます。これは、地域にとっても福祉教育です。



Let's Try

●用意するもの●

まち歩き用

- ☐地図 ☐カメラ（動画付き） ☐ビニール袋
☐水筒 ☐画板 ☐ノート ☐筆記具 ☐録音用レコーダー
☐笑顔 ☐知りたい気持ち

●子どもディレクターの進め方●

1 情報収集（下調べ）

家族やご近所の方から地域の中で「こんなステキな所がある」「こんな面白い人がいる」といった情報を集めよう！

2 グループ（班・チーム）分け

インタビュアー（お話を聞く）係、
カメラ係、メモ係など役割を決める

3 取材先の決定、準備

- ・取材させていただく方に事前連絡
- ・どんなことを聞きたいか(知りたいこと)考えてメモをしておく

4 お宝探しの取材に出発

まちのいろいろな人にインタビュー！

5 みんなでお宝を見せ合おう！

集めたお宝の映像や写真を見てみよう

6 みんなでお宝を分け合おう！

番組や地図、新聞にして発信しよう

7 気づいたことを整理しよう

まちのお宝を大切にする方法
や、もっとよくしたいことを考えて、
できることを提案しよう。



打ち合わせは入念に。
時間配分・役割分担……。

● 綿内小学校 4 年礼組
児童のお母さんより

学校へ行くのは、問題がある時とか注意される時、というマイナスイメージがあったのですが、子どもが幸せに思うことを一緒にやりませんかと誘っていただいて、学校に対する気持ちが変わりました。声をかけて頂いたことで、親も、地域の人も一歩踏み出すことができました。

「住民ディレクター」の活動の目的は、立派な番組を作ることはありません。カメラを通して見たもの、感じたことを伝える、提言する、ということに意味があるのです。

* 伝えていこう！ 地域の物語

地域の人と、地域の伝承を「お芝居」に

やまびこだより No.132 (2014年度) より

「にとはちさま」の物語を上演

地域みんなの幸せを願い、勇気をもって行動した

おらがこの村の人々を救ってやる！

地域の人と、地域の伝承を「お芝居」に
私たちは、何を大切にしてきたか…
地域の願いを共有する



第12回公演 緑ヶ丘小学校



第8回公演 古牧小学校



第13回公演 南部小学校

長野市古牧地区の人たちが大切にしてきた物語「にとはちさま」。地区の保存会の人と一緒に、長野市立古牧小、緑ヶ丘小、南部小の3小学校が毎年順番に「にとはちさま」の劇を上演しています。第13回目の2014年は、南部小学校の「劇団スター」が上演しました。

語り継がれてきた伝承を 児童劇として復活

長野市古牧地区は、長野駅東側に広がる一帯で、昔ながらの農家や田んぼが残る一方、ビルや新しい家が急速に増えた地区です。この地区にある3つの小学校（古牧、緑ヶ丘、南部）では、例年持ち回りで民話劇「にとはちさま」を上演しています。

「にとはちさま」とは、今から340年ほど前、越訴（幕府への直訴）という手段で善光寺平の村々の窮状を訴え、村の人々を救った若者「助弥」の物語です。

村の人々のために訴えを起こし、罪人となって処刑された助弥のために、当時の人々は祠や神社を建てました。村の人々はそれを彼が訴えた「二斗八

升の年貢」にちなんで「にとはちさま」と呼び、語り継いできました。それは、当時の人々のひそかな感謝のしるしでした。

2002年の長野市制100周年の機会に、この物語が児童劇として初めて上演されました。それをきっかけに、地区内にある3つの小学校で、毎年持ち回りでこの民話劇が上演されることになったのです。本年度第13回公演は南部小学校4年生から6年生の有志16名による「劇団スター」が演じました。

「にとはちさま」への地域の思い

「にとはちさま」の物語は、小学生による上演が始まった当時、地域の人々にも忘れ去られていました。高齢の方は、娯楽が少なかった時代にお祭りでお芝居が上演されていたこと、「にと

はちさま」にちなんだ商品が行商で売られていたことなどを覚えていましたが、今ではそのような機会もありません。

昔の人たちが必死で守ってきた土地に今自分たちは生きているということ、ふるさとの「土」を守って、これからも生きていくということ、みんなが生きていくために、知恵や力を出し合うこと、みんなの幸せのために正しいと思ったことのために勇気を持って行動すること…地域の人々が大切にしてきたそれらのメッセージは、時代が移り変わった現代でも、子どもたちに伝えたい。そうした地域の大人たちの思いに、学校が協力することで、この劇の上演が続けられてきました。



＊花いっぱいの元気な町に 学校同士で協力！ しもすわガーデンプロジェクト

下諏訪町内の小中高特別支援学校6校

やまびこだより No.133 (2014年度)より



プロジェクト始動

花が咲くのが
楽しみだね。



しもすわ未来議会で提案



町の方に育てた苗を配布

みなさんに
喜んでもらえる
と嬉しいです！

下諏訪町では、子どもが主役となって地域や社会について考える「しもすわ未来議会」が行われています。ここでは町内の中高生が議員となり、町をより活性化させていくための計画を町長に提言しています。

2012年度には、「町を訪れる方々を『おもてなしの心』をもって迎えたい」と考えた中学生議員から「町中を花でいっぱいに行きたい」という提言があり

ました。

そこで、翌年度、町を挙げての「花いっぱい活動」として「しもすわガーデンプロジェクト」が始動しました。町内の小中高特別支援学校6校みんなで協力して、町のあちこちを各学校で育てた花で飾りました。

今年から、「さらに町を花いっぱいにしよう」と、学校で育てた苗を町民の方に配布したところ、多くの方が笑顔で花を持ち帰ってくださいました。

現在は、町歩きイベント「三角八丁」を盛り上げるため、そこで飾る花を育てています。下諏訪中学校では、昨年と同じく諏訪大社下社秋宮前の「大社通り」に飾る予定です。地域の方や観光客の方が明るい気持ちになってくれたらと思い、大切に育てています。

今後もこのように地域や他の学校とつながりをもって活動の場を広げていけたらと思います。

＊中学生がイベントスタッフに 施設の納涼祭で活躍

大町市立 仁科台中学校

やまびこだより No.131 (2013年度)より



地域の方が
たくさん来て
くれるといいな！！



テントの設置



イベントの打ち合わせ

地域の皆さんにも
観ていただきた
いです。



ありがとうね。



七夕の飾り付け

仁科台中学校生徒会では、役員と会員有志が、20年以上にわたって8月に行われている福祉施設（鹿島荘）の納涼祭にボランティアとして参加しています。

前日の会場作りでは、夏の日差しが照りつける中、テントの設置や七夕飾りをしました。当日の運営では、利用者の方とカラオケやゲームをして楽しみました。

利用者の方から「ありがとうね」とか、職員の方から「若い力のおかげでとても助

かりました」といった感謝の言葉をいただいたことを通して、「私たちも地域を支える一員になれたな」と実感することができました。

参加した有志の一人は「前からボランティア活動に関心があったので参加しました」と志願理由を言っていました。

地域の方々に感謝の気持ちを行動で表し、信頼してもらえる活動を今後も継続し

ていきたいと思っています。そして、地域のために中学生ができることを生徒会活動の一つの柱として継続していきたいと思っています。

＊地域に元気を！ 伝統芸能を引き継ぐ一員として

上松町立 上松中学校

やまびこだより No.123 (2012年度)より

上松中学校には、1990年に始まった郷土芸能部があります。2012年度は、3年生を中心に希望者を募り、夏休みから週1～2回の割合で活動しています。

郷土芸能の内容は、お祭りの前夜祭などに行う「獅子舞」や歌舞伎の「白浪五人男」などです。町に古くから伝わる芸能で、「上若連」という神社のお祭り組織の方々が中心となって行っています。練習には上若連の方々が来てくださり、獅子の動きや太鼓・笛のリズムなどを丁寧に指導して下さいます。



二人で舞う

部員の中には、卒業後、上若連に入って活躍している人も多く、指導者も皆上松中学校の先輩です。

秋の文化祭と町の芸能祭が発表の場です。上若連の方に和服の衣装を着せてい

ただき、腕には白粉も塗っていただいたので本格的な発表になりました。「これからは郷土芸能に関わっていきたい」と語る生徒の多くは、いつか地域が誇る伝統芸能の担い手として活躍し、ふるさとをもっと元気づけたいと願っています。



上若連の方から指導をうける

＊地域の伝統芸能を受け継いで 長い歴史と伝統に支えられた古田人形芝居

箕輪町立 箕輪西小学校

やまびこだより No.124 (2012年度)より



定期公演

箕輪西小学校には、平成4年に始まった古田人形クラブがあります。今年度は4～6年生の22名が参加し、課外活動クラブとして21年目を迎えました。古田人形芝居保存会の先生方にご指導いた

だき、11月の校内発表会・12月の定期公演に向けて、練習をしています。

演目は、女の子が生き別れの両親を訪ねる話「傾城阿波鳴門・順礼歌の段」で、語り役や人形役・口上など多くの役割で構成されています。一つの人形を3人の遣い手で操作するのですが、人間の動きに少しでも近づけられるように細かい工夫が必要です。

また、全員が心を一つにして、集中して演じないといい発表にはなりません。これからもみんなでしか

り練習して、見る人の心に残る発表になるようがんばりたいです。

300年近い歴史の中で何度も消えかけたことがあったそうですが、卒業した先輩の中には、箕輪中学校古田人形部や保存会に入り、この大切な文化を守ろうとがんばっている方もいます。私たちも、長い歴史と伝統に支えられ、地域や先輩の方々の努力で続いてきた古田人形芝居を大切にしていきたいです。そして、次の世代へと伝えていきたいなと思っています。



人形役練習

＊南木曽町のお宝発見！ 魅力ある「触れ合い」「体験」を通して

南木曽町立 南木曽小学校

やまびこだより No.126 (2013年度)より

南木曽小学校では、田立小、蘭小、読書小の三つの小学校が統合して6年目を迎えました。統合をきっかけに、遠足では6年間のうちにすべての地域を訪れています。

また、生活科や総合的な学習の時間では、「南木曽と木」「南木曽と水」「南木曽と道(中山道)」といったように、南木曽町の豊かな自然や文化・歴史を題材にして、学年ごとにテーマを決めて地域と関わりながら魅力ある学習をしています。



田立地区でのお茶摘み

このように、たくさんの地域の方々と「触れ合い」「体験」を通して、南木曽の誇れる宝を発見しています。



読書地区での林業体験

妻籠宿は
いいところ
ですよ



パンフレット配り

